

アートで矢掛大名行列



町民が創作したお面を大名行列に見立て飾り付ける学生

川崎医福大生 町民創作お面展示

矢掛町を代表する恒例行事「大名行列」を表現したアートが、観光施設「矢掛ピジターセンター問屋」(同町矢掛)にお目見えした。川崎医療福祉大(倉敷市松島)医療福祉デザイン学科の学生有志が企画、町民に自由に創作してもらったお面を飾り付け、町のにぎわいを表している。10日まで。

医療、福祉現場の課題をデザインで解決す

矢掛町を代表する恒例行事「大名行列」を表現したアートが、観光施設「矢掛ピジターセンター問屋」(同町矢掛)にお目見えした。川崎医療福祉大(倉敷市松島)医療福祉デザイン学科の学生有志が企画、町民に自由に創作してもらったお面を飾り付け、町のにぎわいを表している。10日まで。

医療、福祉現場の課題をデザインで解決す

3月24日には学生4人と指導教授らが飾り付け。問屋の梁から何個もつり下げた。お面を貼り付けた高さ180センチの三角柱は、町並みや集まった町民、観光客をイメージした。同大の堀家葉月さん(20)は「素晴らしい表現のお面ばかり。大名行列で活気のある矢掛が再現できたのでは」と話している。

午前9時～午後5時。無休。問い合わせは、やかげDMO(0866-830001)。(入野晶彦)

